May 2017 subject reports

Japanese A: literature

Overall grade boundaries

Higher level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 17	18 - 32	33 - 45	46 - 58	59 - 71	72 - 83	84 - 100

Standard level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 16	17 - 30	31 - 43	44 - 56	57 - 69	70 - 81	82 - 100

Higher level internal assessment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 5	6 - 10	11 - 13	14 - 17	18 - 21	22 - 25	26 - 30

提出された成果物の特徴および適切さ

ほとんどの作品は「指定作家リスト」（PLA）の異なるジャンルから選択されており、内容および技法を分析するのに適していました。大多数の詩の長さは、20～30 行で適切でした。比較的短い詩や短歌は、コメントするのに十分な材料がある場合にのみ適しているといえます。

コメンタリーに使用する詩には、教師による 1 つまたは 2 つの「考察を促す問い」を添えることになっていますが、これらは、生徒が詩または詩の抜粋を分析する際に役立つものでなければなりません。「考察を促す問い」のほとんどは適切でしたが、提出された詩に適していない問いもありました。『指導の手引き』や『教師用参考資料』にある「考察を促す問い」の例から選んで使用している学校もありましたが、その場合は必ず出題する詩に適しているかを確かめてから選ぶようにしてください。

大多数のサンプルは適切にスキャンされていました。しかし、「考察を促す問い」が記載されていない、「考察を促す問い」のみで詩が記載されていない、または提出された詩と生徒の手元にいった詩とが異なっているなどといったサンプルがいくつかありました。

録音に関しては全体的に良かったです。少数ですが、複数の生徒の話声、学校のベル、電話の音などが録音されていました。受験者にとっても評価に適切な場所を選ばなければなりません。

コメンタリーの所要時間は 10 分です。受験者がコメンタリーを述べる時間は 8 分、その後教師は、受験者との質疑応答を 2 分間行います。ほとんどの場合においてこの時間は守られていましたが、10 分を過ぎてからも教師の質問が続いている場合もありました。規定時間の 10 分間を超えた分に関しては採点の対象にならないため、注意が必要です。

コメンタリーに選択された詩の著者は，萩原朔太郎、宮沢賢治、石垣りん、中原中也、谷川俊太郎、高村光太郎、三好達治、西脇順三郎、北原白秋などでした。

HL ではコメンタリー終了後録音を止めず直ちにディスカッションに入ります。この際少数ではありますが、受験者があらかじめ作品を選択したのではないかと思われるケースがありました。ディスカッションに使用された作品のほとんどは、受験者が文学的議論を展開するのに十分な材料のあるものでした。

ディスカッションは、プレゼンテーション、あるいはあらかじめ用意された質問に答える場ではありません。受験者の返答に応じて作品に対する文学的ディスカッションをすすめていくことが求められています。最初の問いかけの設問を用意することは問題ありませんが、すべての質問をあらかじめ用意しておくことは推奨できません。

評価規準に基づく受験者の到達度

規準 A

ほとんどの受験者は、出題された詩に関して十分な理解があることを示していました。しかし中には、詩を 1 行ごと読み、言葉をかえて表面的な説明のみで終わる受験者もいました。

規準 B

多くの受験者はこの評価規準において十分な力を示していました。到達度の高いコメンタリーでは詩人がどのような目的で種々の技法を使用したか、そしてそれらの効果は何であるかを適切な例を挙げて解説していました。しかし、詩のなかにある修辞法を指摘するだけで、それらが主題とどのように関わり、どのように意味を形成しているかを述べていないコメンタリーもありました。

規準 C

多くの受験者はコメンタリーを明確に構成する力を示していました。到達度の高いコメンタリーにははっきりした序論、本論、結論があり、構成を十分に考えて話していることが明らかでした。しかし、詩を 1 行ごとに読んで説明したために時間がかかり、まとまりのないコメンタリーになってしまった受験者も少なくありませんでした。

規準 D

ほとんどの受験者は、ディスカッションに用いられた作品の内容とその関連事項について詳細な知識があり、十分に理解していることを示していました。教師の適切な問いかけによって、自分の力を十分に発揮し興味深い文学的議論を展開出来た受験者も少数ですがいました。

あらかじめ用意したと思われる関連性のない数々の問いを次々に質問をする質疑応答のようなサンプルも見受けられ、さらには少数ではありますが、コメンタリー終了後に制限時間まで 1 人で話し続けた受験者もいました。

規準 E

教師の問いかけは、作品に関連付けられ、適切でした。教師の問いかけに対して、豊富な知識に基づきながら自分の考えを示すことが出来た受験者も多くいました。

規準 F

受験者の多くは明瞭かつ簡潔に自分の考えを述べていましたが、文学用語や豊富な語彙を用いて話すことが出来た受験者はごく少数でした。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

受験者が課題文に対して、コメンタリーを効果的に組み立て、一貫性を持ちながら 8 分間論じられるようになるには日頃から演習を繰り返すことが必要です。

『指導の手引き』(p.79)では、個々の抜粋に 1 つまたは 2 つの「考察を促す問い」を設定することが定められていますが、1 問は知識と理解に関するもの、もう 1 問は作者の用いた技法に関するものにすることを奨励します。そうすることで、受験者はバランスの良い論評を構成することができるでしょう。

試験官はコメンタリーが 10 分を超えた場合、その箇所は評価しません。また、コメンタリー 10 分、続いてディスカッション 10 分、合計の所要時間は 20 分間です。コメンタリーが 10 分を大幅に超過すると、当然のことながらディスカッションが短くなってしまいます。教師

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

は時間を厳守するように心がけてください。ディスカッションにおける教師の重要な役割は、受験者から作品に関する興味深い回答を引き出し文学的議論が出来るようにすることです。受験者が自分の力を存分に発揮できるような質問ができるよう、教師も日頃からしっかりと研究をしておくことが期待されます。

なお、ディスカッションに使用する作品はコメンタリーでは使用されなかった 2 つの作品の 1 つでなければなりません。このルールが守られていなかったケースもありましたので、注意が必要です。

Standard level internal assessment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 8	9 - 12	13 - 16	17 - 19	20 - 23	24 - 30

提出された成果物の特徴および適切さ

多くの学校は適切な手順に従い個人口述コメンタリーを行っています。 実施手順が不確かな場合は『「言語 A：文学」指導の手引き』ならびに『DP 手順ハンドブック』を参照してください。

サンプルの質は概してよく、「考察を促す問い」も数、質ともに適当です。ただし、「考察を促す問い」がない場合があります。そこで抜粋に「考察を促す問い」を併記し、同一紙面に収まるようにすると良いと思います。

「パート 2：精読学習」の作品は PLA から選択され、内容および技法を分析するのに適切なものでした。

教師は生徒の論評が 10 分を超えない限り、終了後に質疑応答を行っています。また、教師の質問は、生徒が自身の知識と理解をさらに明確にし、考えを示す機会を与えうるものになっていました。

評価規準に基づく受験者の到達度

規準 A

生徒の多くは抜粋に対する適切な知識と理解を示し、また抜粋と作品全体との関連も意識しています。しかし作品と作者について一般的知識を述べるにとどまり、抜粋箇所の深い理解を示していない生徒もいました。規準 A では生徒の独自の鑑賞と分析が求められています。そこで、生徒は抜粋の表現に自身がどう共感するかを考慮するとよいでしょう。

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

規準 B

生徒の多くは抜粋の構成、技法、文体などを指摘しています。しかし指摘するだけでなく、それらがどのような効果をあげているかも明らかにする必要があります。この点をさらに論評できるとよいでしょう。

規準 C

生徒の多くは論評の構成を意識していますが、「考察を促す問い」に答えるのみ、あるいは適切な引用に裏づけられた理解が示されないといったケースがあります。序論と本論との繋がりも大切です。なぜなら序論は生徒の抜粋に対する総合的な見方を提示するからです。

生徒の多くは行を追って論評を行っています。このアプローチは論評に一定の構成を与え、特定箇所の分析を可能にしますが、主題に焦点を当てたホリスティックなアプローチを試みるのもよいでしょう。

規準 D

生徒の多くは聞き手を意識した明瞭な話し方をしていました。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

個人口述コメンタリーの指導と手順を整理したチェックリストを作成すると生徒、教師の双方に役立つと思います。

生徒のコメンタリーの時間が 8 分以上にならないよう注意してください。教師は質疑を 2 分行う必要がありますが、実施時間が 10 分を超える場合、試験官はその箇所は採点しません。

抜粋はパート 2 の作品から選択し、20～30 行が推奨されています。抜粋の長さに注意するためにも、行に番号を振るとよいでしょう。

Higher level/Standard level written assignment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 6	7 - 9	10 - 12	13 - 15	16 - 18	19 - 20	21 - 25

提出された成果物の特徴および適切さ

提出された論文の質は向上しています。ただ、トピックの選択が上手くなされていないケースも目立ちます。トピックが広すぎたり、不適切なものだったりすると、分析の焦点を絞るのが難しく、結論も曖昧なものになってしまいます。

「振り返りの記述」の内容も向上しましたが、まだ目的が明確に捉えられていないものがあります。この要素においては「対話形式の口述活動」または「ジャーナルの執筆」において、自己の考えがどのように発展したかを述べることが求められていますが、それが述べられていなかったり、ただ自分の考えが「変わった」と述べられていたりする論文もありました。

受験者の名前、学校名、受験番号等は課題に一切記載しないことになっていますが、一部の学校ではそれらが書かれていました。また一部ではありましたが、「教師の監督下での記述活動」や、2 作品の「振り返りの記述」がアップされていたり、Extended Essay で必要とされている「要旨」のようなものがアップされていたりすることがありました。こういった事務的なミスにもご注意ください。

評価規準に基づく受験者の到達度

規準 A

前述したように、内容はかなり良くなりましたが、この規準の重要な要素である「発展」が述べられていないものもありました。また「発展」という言葉が使用されていても、どのように発展したのか明確に述べられていないものは、最高点は獲得できません。

規準 B

ほとんどの受験者が、作品に関する正確な歴史的、社会的、文化的知識を持っています。一部の論文には、作品を理解していることは示しているものの、それがトピックと上手く結びついていない場合も見られました。また、高得点を獲得するためには「鋭敏な洞察」を示すことが肝要です。

規準 C

トピックそのものが作者の言語、構成、技法およびスタイル(文体)の分析を要求する場合は問題ありません。しかし、そうでないトピックを選択した場合には、作品の分析の際にこの規準をしっかりと意識しないと、点数を落とすことになりかねないため、注意が必要です。

規準 D

多くの受験者が構成を意識して論文を書いています。したがって、大きな問題はありませんが、一部の論文では作品からの抜粋や引用が効果的に使用されていません。具体例がないと、論が抽象的に流れ、説得力を欠いたものとなってしまいます。

規準 E

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

ほとんどの生徒が文学的論文を書くのに相応しい力を持っています。ただ、パソコンの使用により、同音異義語によるミスが目立ちますので、書き上げた後しっかりと見直すようにしてください。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

適切なトピックの選択は論文の大切な要素です。教師は受験者が記述課題に相応しいトピックを選択できるように、しっかりと話し合うようにしてください。

評価規準をきちんと生徒に説明して、論文がどのような要素で評価されるのかを受験者が認識できるようにしてください。特に評価規準 C のように、トピックによっては明確に意識しないと高得点を取りにくい場合があるので、教師の指導が大切になってきます。

普段から小論文を書く機会を設け、全体の流れや構成、引用の仕方等、重要な基礎を受験者がしっかりと学べるようにするとよいでしょう。

Higher level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 2	3 - 5	6 - 9	10 - 11	12 - 14	15 - 16	17 - 20

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

論評を書くためには課題文の基本的な内容理解が重要ですが、これがきちんとできていない答案が少なからず見受けられました。このような答案では、受験者が課題文における時間や場所の推移、また登場人物間の相互関係などをきちんと把握しないまま解説文に取り組んでいるため、根拠となる課題文への言及も十分でなく、説得力に欠けるところがありました。

表現技法を分析し解釈するにあたり、その意味するところを課題文全体の主題にうまく繋げている解答はあまり多くありませんでした。ほとんどの解答は、課題文を行ごとに説明し、決まりきった一般的な解釈に終始していました。

自分の考えを述べるにあたり、効果的に構成している解答はあまり見られませんでした。限られた試験時間内で、自分の考えを整理し、どのように論を展開するべきかをよく練ったことがわかる解説文は稀でした。

表記では漢字の誤字脱字が多く、部首や送り仮名の間違いが頻繁に見られました。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

全体的にレジスターや文体は課題に適切で、文法の間違いも少なく専門用語の使用もよくできていました。また、序論や結論も含め、論評を時間内に書き終えていて、未完の解説文はありませんでした。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

散文：ほとんどの解答は、未里と他人との「現実」に対する解釈の違いを理解し、五感に訴える要素や色彩の多用 、直喩、固有名詞、感嘆符、体言止めなどの技法を認識していました 。優れた解答は 筆者の視点や態度をより深く分析して、「過去」の記憶の中から「現実」を探す過程で、自問自答しながら「現実」や「過去」「未来」までが「影」であるという結論にいたる筆者の心情について適切に考察していました。一方、課題文の基本的な理解がきちんとできていないため、抽象的な心理風景の解釈が曖昧な解答も少なくありませんでした。

詩： 一連構成で口語自由詩という構成や形式、繊細で安穏な「風景」の美しさが筆者に幸福感や静寂を与えていること、またそこに「私」が存在していないことが全体を通して強調されていることは、ほぼ全員理解していました。対句、擬態語、体言止め、代名詞の多用、文末における過去形の使用などの技法も認識できていました。優れた解答は、最後の行の意味するところ、つまり「私」を含む人間不在ゆえの世界の確実性に感服した筆者の思いを適切に論じていましたが、そのような解答は少数でした。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

課題文に対する解釈を述べる際には、根拠として本文中の適切な箇所に言及しなければなりません。曖昧になりがちな心象風景の解釈においては、なぜそう考え得るのかという裏付けが非常に重要になってきます。

生徒に、説得力のある論評とはどのように構成されているのか、自分の考えをどのように展開すればより効果的な論評になるのかなど、日頃の授業で考え工夫させることが大切です。多くの枚数を費やして課題文を行ごとに説明することは 高得点に繋がりません。

日々の漢字練習は、誤字脱字をなくすためばかりではく、語彙を増やすためにも続けてください。

Standard level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7

Mark range:	0 - 2	3 - 5	6 - 8	9 - 11	12 - 14	15 - 17	18 - 20

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

作品全体の意味や主題をとらえたのち、そこからどれほど分析を深めることができたかが、得点を左右しました。例えば、登場人物の性格について言及したら、そこからさらに「どのような特徴があるか」、など、また、「峠」を二連構成と言及したら、各連の持つ働きや連内の動きなどにまで深く解説が及ぶと良かったです。少数ではありましたが、段落の間に一行開ける、段落の始まりに矢印を書くなど、日本語の作文として認められないフォーマットの解答がありました。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

多くの解答が、ある程度まとまりのある序論としての段落から始めており、十分に練習を行い、試験に臨んだことが感じられました。また、ほとんどの解答が、「考察を促す問い(ガイディングクエスチョン)」の両方に言及し、それを分析の助けとすることができていました。

設問ごとの解答結果(強みや弱点)

小説の抜粋部について、「焼却炉」の持つ象徴的な意味を、多くの解答が的確な引用とともに述べることができていました。また、ガイディングクエスチョンで問われている通り、個々のアイテムに対する描写の細かさなど、言語的選択について言及している解答が多く、それは評価されます。一方で、主人公の心の動きについて、細かい分析ができた解答は限られており、そこが得点を分けたとも言えます。

詩歌について、多くの解答が、「峠」を「人生」や「目標への達成」などと比喩的に捉えることができていました。また、対句、反復、撞着語などの技法についての用語が、多くの解答で積極的に書かれており、これは詩歌の解説の練習をしっかり行った上での成果だと思われます。一方で、漢字とひらがなの書き分けなど、表記についての深い解説があまり見られなかったことは残念でした。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

序論について書き慣れた様子がみられた一方で、結論部が弱かった解答が少なからずありました。本論で述べられた個々の分析を、改めてまとめ、全体の主題についてしっかりとした語彙で述べることができるかが、結論部の質を決めます。序論とともに、結論部をまとめる力に注目したさらなる練習も必要でしょう。

また、ガイディングクエスチョンの扱い方について、誤解がみられる解答がありました。ガイディングクエスチョンは 2 つありますが、書く解説文は一本です。2 つの解説文を提出した解答がありましたが、これは評価 C の構成に関わるだけでなく、評価 A の理解および評価 B の分析の深さにも関わる可能性があります。

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

Higher level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 8	9 - 11	12 - 15	16 - 18	19 - 22	23 - 25

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

設問で問われていることに対して、明確に答えていない答案が見られました。作品の粗筋やストーリー解説、または作者についての知識等が先行してしまい、肝心の設問のキーポイントがおろそかにされている場合があります。また、作者の技巧の分析は HL において重要な要素ですが、余り触れられていない答案も見られます。設問自体が作者の技巧の分析を要求するものであれば良いのですが、そうでない場合は受験者が意識して分析しないとどうしても弱くなってしまいます。パソコンの普及とともに、原稿用紙の使い方を知らない受験者も増えています。基本的なルールは覚えておくべきです。また、重要な漢字が書けていない場合もあります。「発達」「完璧」「強調」「苦悩」等の漢字や、「夏目漱石」「太宰治」等の作家名のミスが目立ちました。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

ほとんどの受験者が、学んだ作品の内容は良く理解していますし、必要な知識も持っています。さらに、今年は長い答案が目立ちました。もちろん量より質が大切ですが、長い答案を時間内に仕上げることができるのは、普段からよく練習していることの証拠です。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

設問 1：作品の知識や理解は問題ないのですが、設問の重要な要素である「展開」を意識していない答案がかなり見られました。いかに詳しく「粗筋」を説明してその面白さが読者を作品に引き込んでいると分析しても、「展開」について明確に問われているので、そこをまとめないと高得点には達しません。大切なのは設問で何が問われているのかを、まずしっかり理解してから答案作成に臨むことです。規準 C は幅広く捉えてかまわないのですが、それでもこの規準を意識していない答案も目立ちます。この設問では、作者が作品の展開において読者を引きつけるためにどのような工夫を凝らしているかが問われていますので、それについて深い分析をすれば、規準 C もクリアできるはずです。

設問 2：この設問で難しかったのは「道徳」の定義です。きちんと理解している受験者もいましたが、かなり多くの答案が「道徳」と「宗教」を混同していました。もちろん宗教が道徳をつくっていくことも多いのですが、宗教は道徳そのものではありません。そこを明確に区別して論じないと、答案に説得力が不足し、明快さも欠けることになります。「道徳に関する要素」について説明していても、それを使用することによってどのような効果をあげて

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

いるかまで論じることのできた答案は少なかったです。その意味において規準 C の作家の技巧に関する分析もあまり良くできてはいませんでした。

設問 3：決定的な役割をした脇役は誰であるか逆算し、それに基づいて論じた答案が多かったので、論理的に明快なものが多くありました。また、多くの場合脇役を少人数に絞って論じたので、主人公との関係性も明瞭で説得力がありました。答案全体の流れも、構成を意識したものが多く、普段から論文の練習がなされていることがわかりました。語彙や文章も安定したものが多かったです。

設問 4：解答者無し

設問 5：解答者無し

設問 6：解答者無し

設問 7：解答者無し

設問 8：解答者無し

設問 9：解答者無し

設問 10：解答者無し

設問 11：作品から多くの具体例をあげて、作家が日常的な経験をどのように劇の題材としているかを非常に明確に説明しています。技巧の分析もしっかりとできていて、論全体の流れも良く、質の高い論が多く見られました。

設問 12：作品の知識と理解が深く、設問で問われている「構成」についてきちんと意識して論じていました。その結果、論は明快で説得力に満ちたものとなっています。普段の練習の成果がよく出ています。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

HL ですから、基本的な教育漢字はしっかりと間違いなく書けるように普段から工夫を凝らす必要があります。日常の授業で漢字テストを実施するのも良いですし、また小論文等の宿題、演習を課すことも大切になってきます。さらに、原稿用紙に直筆で書くという試験のスタイルを意識した指導も必要です。原稿用紙の基本的な使い方はもちろんのこと、作家や作品の名前を間違いなく書けるようにし、語句や文章を削除したり追加したりする時の方法なども指導すると良いと思われます。

規準の中では C の作者の技巧の分析が弱いので、授業において技巧をどのように分析して、論に盛り込んでいくのか指導する必要があります。これは「試験問題 1」とも共通点が多いので、授業でしっかりと扱うメリットも多いでしょう。パート 3 で学んだ作品の文学表現的特色を試験前にまとめておくことが効果的です。

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

Standard level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 8	9 - 11	12 - 14	15 - 18	19 - 21	22 - 25

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

設問にもよりますが、問われていることに明確に答えていない答案がかなり見られました。意味もなくストーリー解説をしたり、粗筋を書いたりしているものもありました。作者の技巧の分析も、受験者により差はあるものの、難しい要素の一つです。また、パソコンで文章を書くことが多くなっている結果でしょうか、漢字のミスも多く見られます。教育漢字はきちんと書いて欲しいですし、作者名や作品名は正確に書いてください。特に夏目漱石の「漱」、太宰治の「宰」などは多くの受験者が間違っています。原稿用紙の使い方も年々間違いが増えています。行頭に句読点が来ている、作品名に括弧を使用していない等が目立ちました。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

論文の構成はしっかりとしています。ほとんどのものが序論、本論、結論を意識していて、分かりやすい論となっています。また多くの受験者が、作品に対する正確な知識を持っています。

設問ごとの解答結果(強みや弱点)

設問 1：作品が「どのように読者を物語の中に引き込んでいくのか」については、ほとんどの答案が良く分析されていました。しかし重要な要素である「展開」についてしっかりと論じられていない答案が目立ちました。設問で問われていることを一度良く確認してから答案を書いていくことが大切です。作家の技巧について充分な分析をしているものは少なく、この規準 C で高得点を取ることの難しさを示しています。

設問 2：作品の知識と理解については、満足できる内容でした。ただ問われている「道徳」の意味を明確に把握していない答案もありました。「道徳」を「宗教」と混同している答案が多くありました。設問では作家の技巧の解説を求めているのですが(特に「効果」の分析を求めています)、それを意識している受験者が少ないので、規準 C の技巧の分析が弱くなっていました。

設問 3：脇役を分析するという意味では、どの答案も問題ありませんでした。難しかったのは「脇役の登場人物が、他の登場人物との関係性を通じてどのように物語の中で決定的な役割を果たすのか」という部分です。「他の登場人物との関係性」をどのように理解し絞って

論じることができるか、そして「決定的な役割」ということをしっかりと論じているか、ということが答案の明暗を分けています。

設問 4：解答者無し

設問 5：解答者無し

設問 6：解答者無し

設問 7：解答者無し

設問 8：解答者無し

設問 9：解答者無し

設問 10：「喜劇的な要素」について分析し論じるという明確な設問なので、答案も明確で説得力のあるものでした。作品の知識や理解も深く、良くできていました。

設問 11：「日常の経験」ということをどのように理解するかが重要となっていました。そういった経験が劇の中でどのように使用されているかは明確に分析されていました。しかし、それがどのような意味を持ち、作家のどのような意図があらわれているか等のさらなる深い分析はあまり見られませんでした。

設問 12：作品の知識と理解は問題ありません。「構成」について問われていますが、多くの答案が舞台装置、ト書き、情景描写等の分析を行っていました。それを「構成」に上手く結びつけることができた答案とそうでないものとで得点が分かれました。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

基本的な漢字を書けること、原稿用紙の使い方を学ぶこと等の、論文を書くための最低限の基本的要素はしっかりと教えておくべきです。そのためには、できる限り多く小論文の課題を出して、丁寧に添削することが求められます。その際に過去に頻出している設問を活用すると、良い練習になるでしょう。漢字のテストを授業に組み込むのも有効です。

規準の中で最も弱いのは、C の作家の技巧に関する分析です。普段の授業において、作家の技巧にどのように気づかせるか、それを他の作品と上手く比較するにはどうしたら良いか、等の実践が必要です。こういった分析は「試験問題 1」のコメンタリーとも共通点が多いので、種々の工夫が必要です。

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional